

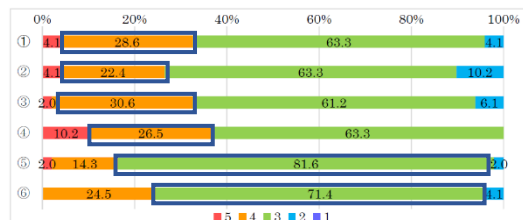
第5節 SSH中間評価において指摘を受けた事項のこれまでの改善・対応状況研究開発の課題

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評を受け、改善・対応状況と研究開発の課題

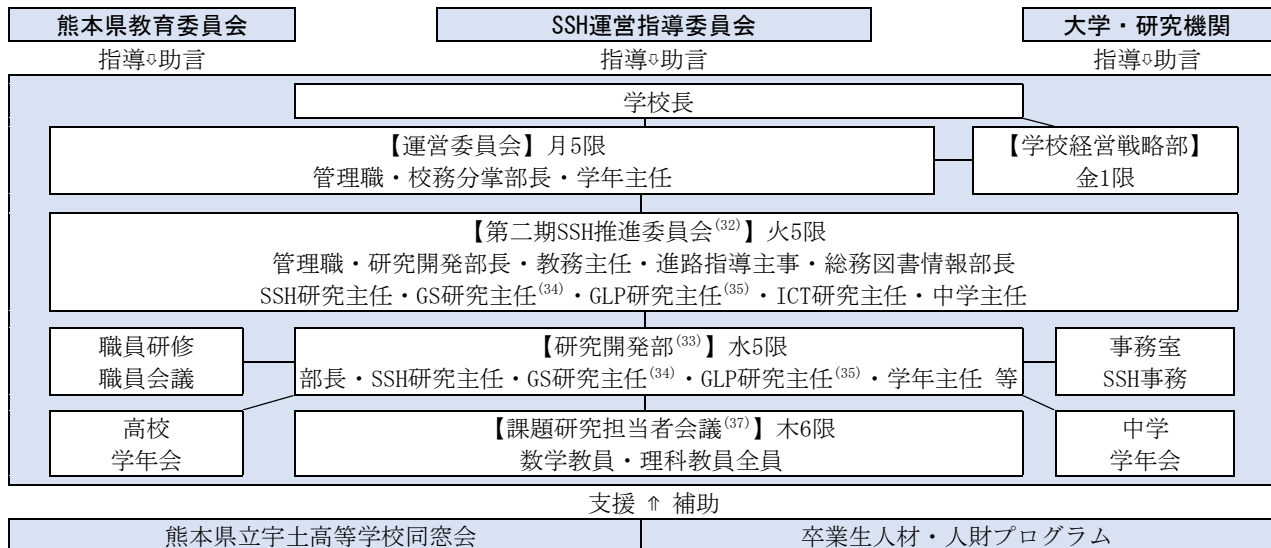
文部科学省令和3年3月9日2初教課第33号「SSH中間評価(平成30年度指定)の結果について(総括)」より引用。項目別評価の本校評価を右図「枠囲い」で、講評(一部抽出)に対する改善・対応状況を示す。



項目	改善・対応状況と研究開発の課題
① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価	改善・対応状況と研究開発の課題 教師の意識の変容について、量的調査①探究の指導経験の変容、質的調査②授業の変容、③探究指導の2つの側面から調査実施。ポートフォリオ分析から本校生徒の重点改善項目となる資質・能力の要素を抽出した。(③本文第5節実施の効果とその評価、④関係資料参照)
② 教育内容等に関する評価	改善・対応状況と研究開発の課題 生徒対象SSH事業に関するアンケート(質的調査)の結果をポートフォリオ分析し、研究開発の仮説を総合評価に設定し、個別評価要素の重要度指標と満足度指標を得て、重点的改善要素を抽出したことで、生徒に必要な学習内容、企画に優先的に取り組むことができ、独自開発教材ロジックガイドブック ⁽¹⁹⁾ 第二版製本、GS本 ⁽²⁰⁾ 2021版と改訂版を運用することができている。 (③本文第5節実施の効果とその評価、④関係資料参照)
③ 指導体制等に関する評価	改善・対応状況と研究開発の課題 各学年・各コースの探究活動を支援する前項体制が構築できた半面、ロジックリサーチ、プレ課題研究、SS課題研究、GS課題研究と多様なテーマの指導が求められる現状の課題に対応するため、Google 共有ドライブに探究に関係する資料、生徒が探究する成果物等をすべてアップロードし、関係教員と対象生徒が協働的に扱うことができる体制を構築し、オンライン上ですべての教員が生徒に関わることができ、その内容を可視化できる運用を確立することができた(③本文テーマⅡ参照)。SSH研究推進委員会 ⁽³²⁾ や研究開発部 ⁽³³⁾ 、課題研究担当者会議 ⁽³⁷⁾ で進捗状況の共有に時間を割くことなく、現状の課題や今後の方向性に重点を置いた会議を運営することができている。
④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価	改善・対応状況と研究開発の課題 宇土市連携・研究発表会を開催し、宇土市長賞・宇土市特別賞表彰を目標に取り組むGS課題研究の方向性を構築した。また、NHK BSI Cool Japanで紹介されたウトウトタイム ⁽²⁹⁾ や朝日新聞 EduAに掲載されたペーパーブリッジコンテスト ⁽²⁸⁾ など成果の発信ができた。(⑤本文テーマⅢ参照)
⑤ 成果の普及等に関する評価	改善・対応状況と研究開発の課題 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から昨年度実施を見送った探究の「問い」を創る授業の公開を7月オンライン授業公開、3月授業研究会(実践発表)の2回行い、100人超の教育関係者を集めた。(⑤本文テーマⅠ参照)

第6節 校内におけるSSHの組織的推進体制

①学校全体の校務分掌との関連を含めた組織図



②組織的推進体制の工夫と成果

今年度の成果は、第二期 SSH 研究推進委員会では SSH 研究開発の方向性の議論を、研究開発部では SSH 事業推進の連絡調整を、課題研究担当者会議では課題研究に関する情報共有と、各会議の役割を明確にした推進体制ができたことである。研究開発部長が総括する研究開発部は、SSH 研究主任が SSH 主対象生徒への事業、GS 研究主任が SSH 主対象以外生徒への事業、GLP 研究主任が U-CUBE、GLP 事業、ICT 研究主任が 1 人 1 台端末事業を推進するにあたって、高校・中学の学年主任と連絡調整を図る会議として、週時程で水曜 5 限に実施をした。第二期 SSH 推進委員会では、各校務分掌の代表の視点から SSH 事業の方向性を検討する場として、研究開発の成果や課題、今後の方向性について週時程で火曜 5 限に実施をした。さらに、今年度は学校経営戦略部を設置し、学校長のリーダーシップのもと学校の現状における成果や課題を顕在化させ、学校経営の戦略を練る会議を週時程で金曜 1 限に設定した。課題研究担当者会議は、SSH 主対象生徒が取り組む課題研究の指導にあたる数学、理科の教員が情報交換する会議であり、週時程で木曜 6 限に実施をした。

③SSH担当以外の教師の理解や協力を得るために行った取組、研究開発計画の推進管理のために行った取組

SSH推進に関わる部署等の学校組織上の位置付けや具体的な役割分担

SSH 研究開発計画のテーマ I 「探究の「問い」を創る授業」について、探究の「問い」を創る授業に関する職員研修や公開授業、実践発表会、3 人 1 組教科の枠を越える授業研究⁽³⁶⁾ (テーマ I 「探究の「問い」を創る授業」の該当頁参照)を行うことで、様々な教科が探究の「問い」の設定やシラバス開発・評価研究に取組み、教科横断型授業の視点や気付きを促す機会を充実させることができています。

SSH 研究開発計画のテーマ II 「教科との関わりを重視した探究活動」について、ロジックリサーチ⁽¹³⁾における全職員 OJT (On the Job Training) での指導力を向上する機会の設定、GS 課題研究における指導体制の構築、生徒とともにルーブリック作成ワークショップに参加する機会の設定など研修の充実を図ることができています。

SSH 研究開発計画のテーマ III 「社会と共創する探究」について、U-CUBE を拠点に GLP 研究主任が英語で科学・グローバル講座・同時通訳講座⁽²⁷⁾をはじめ、英語研究発表支援、留学支援等、様々なグローバル教育を展開することができています。産・学・官連携による社会との共創プログラムでは、様々な教科で外部連携による事業展開ができています。

研究開発計画の推進管理のために行った取組では、共有ファイル (カレンダー) に業務 (内容・時期・進捗状況) を記入し、共有することによって、推進管理を図ることができた。

④運営指導委員会の体制

(1) 令和 3 年度の運営指導委員会のタイムスケジュール

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内容	委員依頼公文発出 研究開発実施報告書	中間評価 結果報告	日程調整	第 1 回 運営指導委員会	議事録 確認	日程調整	運営指導委員 個別相談	第 2 回 運営指導委員会				

(2) 令和 3 年度の運営指導委員会の委員

氏名	所属	委員歴
松添 直隆	熊本県立大学環境共生学部 教授 委員長	第 1 期第 1 年次 (H25) ~ 現在 9 年目
元松 茂樹	宇土市長	第 1 期第 1 年次 (H25) ~ 現在 9 年目
小山 郁郎	宇土市役所経済部長	第 2 期第 2 年次 (H31) ~ 現在 3 年目
宇佐川 毅	熊本大学理事	第 1 期第 4 年次 (H28) ~ 現在 6 年目
片山 拓朗	崇城大学工学部機械工学科 教授	第 2 期第 1 年次 (H30) ~ 現在 4 年目
堤 豊	熊本学園大学商学部経営学科 教授	第 2 期第 4 年次 (H25) ~ 現在 1 年目
斉藤 貴志	名古屋市立大学大学院医学研究科 教授	第 2 期第 1 年次 (H30) ~ 現在 4 年目
田中 和恵	熊本県立教育センター教科研修部理科研修室 指導主事	第 2 期第 4 年次 (R03) ~ 現在 1 年目

(3) 運営指導委員会の本校出席職員

校長, 高校副校長, 中学副校長, 教頭, 事務長, 学校経営戦略部 (総務図書情報部長, 教務主任, 中学代表) 研究開発部長, 進路指導主事, SSH 研究主任, GLP 研究主任, GS 研究主任, ICT 研究主任, 学年主任, 事務主査, 実習教師